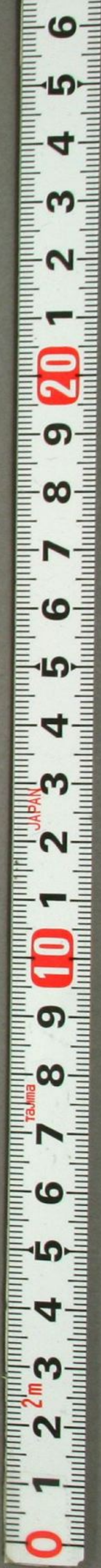


師し接せつ奇き談だん
 臺たい

13
 1457
 1



門へ達 13
1.457

卧遊奇談叙

郭清堂

黄帝ハ黄帝日ヲ遊ビ淳生ハ南柯ヲ

々々無也羨も乃々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々々々

一々々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々々々

市々々々々々々々々々々々々々々々々々

治明

1

お多しりぬ、その事乃虚寒ハ具人
心おのづ自々瞭然アキラカ申ん乃々

大明乃初事

一夕故人叙

卧遊奇談標題

卷一 英雄感孝心与金

卷二

琵琶秘曲泣幽靈
娼樓焼香驚馬五狐

小正集

卷三

深山夜猿射妖怪
隱形奇術逃死囚

卷四

蜃氣樓上得再生

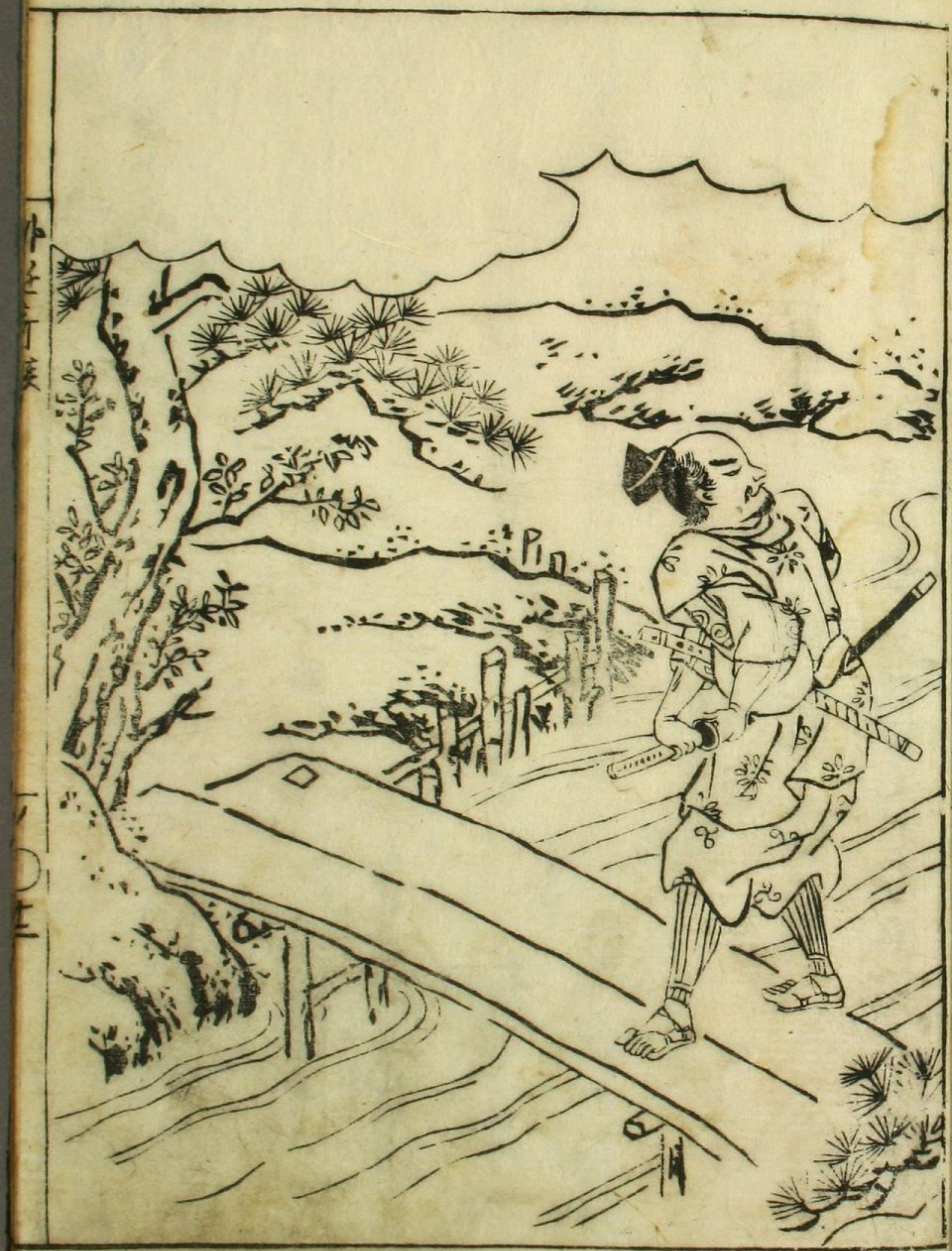
卷五

画图生靈慰情人

卧遊奇談卷之一

英雄感孝心与金

心ありて虚靈不昧のふたさうにて涙なりと凡
人の靈はいつて後着のるぐと後着のりて後見もまど
そのしづらんや及も後小糸家の鼻祖信房新九郎
長氏未相州と領せざるれ先るるぐ一海小園未と孫歴
て之鴻より小田原の事あり己と判根よむと
亭午と過ぐいさうの宿野の事ありと権現と糸糸
夫より湖ありと遠るる大道と出ふと此日の言中と



月夜

ののげ長成よじつし今我輩中にあそび人ありを相見
 せしむる勢勢帯りうらま感する所より品今の乃伴帯流るに
 みるけあてよる心あふとゆらほ復討らふとみわし
 女流をねぐと長成のなをききて我もこのも逢津に
 の中流の中わ婦業帯りて今きうらうらとて
 うらうらとてあふ和を帯りて男あつる涙とらひし
 舟我舟中長成といくものも一樹の陰一河の流と
 化生の堀とらひし身たうよ追うる難儀とて
 あり我れ救げし世の百世ゆく父と又母とて
 あり

長成とて是かたの女あそび家よりあそびたうらうらとて
 是の耕衣の繩をいし産業帯りておこころはさびたひま
 夏るゆかりのひりよとわがざら難儀帯り五月十八日
 海原よ砂のて里足見のりより 親から若と呼よせむ
 ちのあそび彼事ふりて正二 けの合と持もそい
 村中儀程の合をのり物官殿の細りに物持る各持来
 せんといふ腰痛とてゆ事ゆらひとてさういふ
 中ふいぢう心づる一年素の徳実初る取らるる形く
 と芳でんぬれつて居るも不代く紙とてゆひく

我とては女が軍中此若きとりのりては指令とて我ふ
 わがたり我軍に知懸りて衆とゆへありんとの義
 晴我と悦とゆるの悦び懸成謝して敵ふりて我も
 是よかけめら親戚よしり故為ふるべき或は田畑を
 賣成成と代りやうく指令と侍るといふも然る指
 令碎身於骨しては涙なきやなくは朝日見ふ
 わりた思た事と胸でまうていめらとをかた育の養
 不い若根の油海とさるく一人のむ籍我よりる子令
 とりくわん事ととり替てはるふ事士あつは人をまう

うけてゆへすはれ程もかな事成程と人まこといふ
 刀くくこ人と刀はうきめられ指理のい若の中と
 不は継細とるふは身たつたアもあ成生向ううあり
 めんぞ終よ志とびは事と助けとすあめうりて終は
 まうは志と身きく粘互は右刀扱とて一お果さんと志
 まあふと連とは合調いささくはましく喰なれた身と
 我もこ死せだ誰のいでも父が難成程とまことあ
 てかふる道の色り我あよ入まびゆう起き道作りと海
 ぬふやうららるる新九郎よとらしては中じどりく



我を越えぬい家のうら極は着中にかさりとわたり我
と侍ひくめたるべし不忠候する情中に不忠なるは
武指合わりのことと下にあつては軍用の要合ら
とくも子か存らんとん捨るにんぞたんとを撤らり
ゆも何もあまぬ物とらん中令と出たのさまで
夫婦をわすれしうもつふふと人さきとあまなくさう
着るらん極して唯と合きて使ぬれば長氏のさして
夫婦よしひん急ぎの旅つをぬるは途中此費心は
涙のうた又吾合のたんと席と侍して門はむこと

夫婦はけしけしと回らぬ極人のさしけし心強骨ては
忍死ても忘らぬた又いつのさきそは名とありあま
かして中長氏とひと英雄と難ひ起るは分國は
あつて悲我どもこれ様中人にて夫のうらとさしけし
どもはうらとさしけしと云捨てあまぬ陰見のさまで見ら
らつて夫婦のさしけし入のうらとさしけし令と侍し備つふ
て縣吏はさしけし日父も殺死ありさしけしあま
らつて令と侍し息のさしけしあまなりは農業者
とつてわけて長氏園方と領して小田原は居候し軍

外子

一〇二

